

「東アジア文化都市2016奈良市」10周年記念企画
こ と ほ ぐ な ら

「古都祝奈良の時空旅行」を

開催します

令和8年10月13日（火）市長定例記者会見資料

アートを巡り 時代と出会う



BEYOND TIME AND SPACE

未来

FUTURE

近 来

RECENT TIMES

古 来

ANCIENT TIMES

奈良市

2026

11.7(土)

11.29(日)

会場 東大寺観音院、椿井市場、北山十八間戸、近鉄奈良駅前行基広場 ほか

トピックス

2026年11月7日（土）～29日（日）に、過去・現在・未来を巡り体験するアートプロジェクト「**古都祝奈良の時空旅行 アートを巡り 時代と出会う**」を市内各会場で開催します。

■トピックス

- ① 「東アジア文化都市」は東アジア地域における多様性と包摂性の意義を考える事業として、文化庁と共催で実施。奈良市は2016年に大型の美術・演劇等のプログラムを行い、その後も毎年、後継のアートプロジェクトを展開してきた。
- ② 10周年企画「古都祝奈良の時空旅行」では上記事業にちなみ、**日中韓の作家の招聘展示**や**作家&パートナー都市とのシンポジウム**等を開催。
- ③ 回遊性を高めるため、**デジタルスタンプラリー等のキャンペーン**も実施。²

実施の概要と目的

これまでの歩み

- 2016年に文化庁事業「**東アジア文化都市**」の選定都市として、**中国・寧波市、韓国・済州特別自治道**と1年間の文化芸術交流を実施。その基幹事業として「**古都祝奈良ー時空を超えたアートの祭典ー**」を世界遺産の社寺や平城宮跡等で美術・演劇のプログラムを開催。
- 2017年から「**奈良市アートプロジェクト 古都祝奈良**」として**後継事業**を実施。国内外のアーティストと市民が共に創造・体験・学ぶ等、活動機会の創出を図ってきた。
- 2026年は、10年間の成果を総括する節目＆次の10年へ向けた試みの起点として、**これまでの理念を継承した新企画**を展開。



実施の概要と目的

事業概要 「古都祝奈良の時空旅行」

- 古代～未来へと連なる時間層が、同時に実在する稀有な都市、奈良。それぞれの時代性を色濃く残す空間を舞台に、アートプロジェクト等を展開し、歴史と現代、そして未来を結びます。
- 来場者は、複数の各時代を象徴する会場を巡りながら、展示や演劇、市民の創作活動等との出会いを通して、奈良の時間を“移動”する体験が得られます。



実施の概要と目的

事業概要「古都祝奈良の時空旅行」

会期：2026年11月7日（土）～29日（日）※コア期間 21日（土）～23日（月・祝）

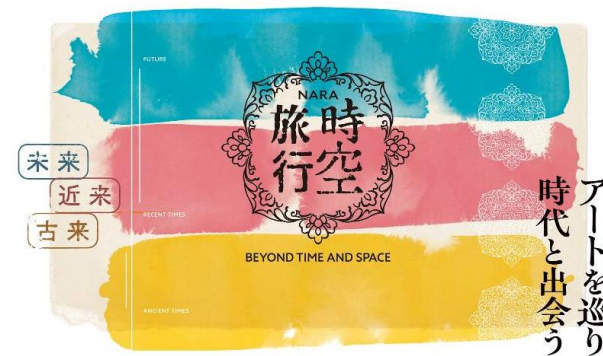
会場：東大寺観音院、椿井市場、北山十八間戸、近鉄奈良駅前行基広場ほか

主催：奈良市アートプロジェクト実行委員会

プログラム

- ・ 招聘アーティストによる展示
- ・ 東アジア国際シンポジウム
- ・ まちなか舞台～奈良パフォーマンスラボ～
／青少年と創る演劇Lite
- ・ 古都祝奈良の学校
- ・ グリーン・マウンテン・カレッジ

全て
観覧無料



プログラム内容 ■ 招聘アーティストによる展示

■会場と作家の組み合わせについて

それぞれの**場所の記憶**と作家の表現を通して、現代社会の持つ様々な課題を**時空を超えて読み直す**ことがねらい。多様性のアジアにおける古都奈良での文化の伝播やまちの変化について、来場者自身の目線で見つめる機会を創出する。

- **観音院 × キムスージャ**

布の作品を通じて、古来からの文化の伝播や関係性を考察

- **椿井市場 × 中崎 透**

ズレた看板を通じ、近來が造ったまちの実態とイメージの”距離”を可視化

- **北山十八間戸 × 顧 剣亨**

写真と地図を織り合わせ、重なる時間と人々の営みが未来へと続く感覚を示唆

プログラムアドバイザー：ArtTank（小平悦子＋近藤俊郎）

プログラム内容 ■ 招聘アーティストによる展示

キムスージャ（韓国）「Meta-Painting」

会期：11月14日（土）～23日（月・祝）

10時～17時

会場：東大寺観音院（奈良市雑司町406-1）



プログラム内容 ■ 招聘アーティストによる展示

キムスージャ × 東大寺観音院

- 東大寺観音院は、長く祈りが捧げられてきた場。また、上司海雲師を中心に文学者や芸術家が集い、奈良を語り、**奈良にまつわる数々の作品が生み出された文化交流の場。**
- キムスージャは、韓国の風呂敷包み「ボッタリ」をはじめ、**包む、解く、縫う、呼吸する等の行為を通じ、人の移動や生活、記憶、文化のつながりを表現する作家。**
- 今回は奈良の布を用いた作品を想定。**布はものを運び、人が移動し、文化が伝わっていく営みの象徴。**祈りと芸術、人と人、奈良と東アジアをつないできた東大寺観音院の歴史を、現代の身体感覚を通して捉え直し、文化の伝播や融合を考える機会となる。



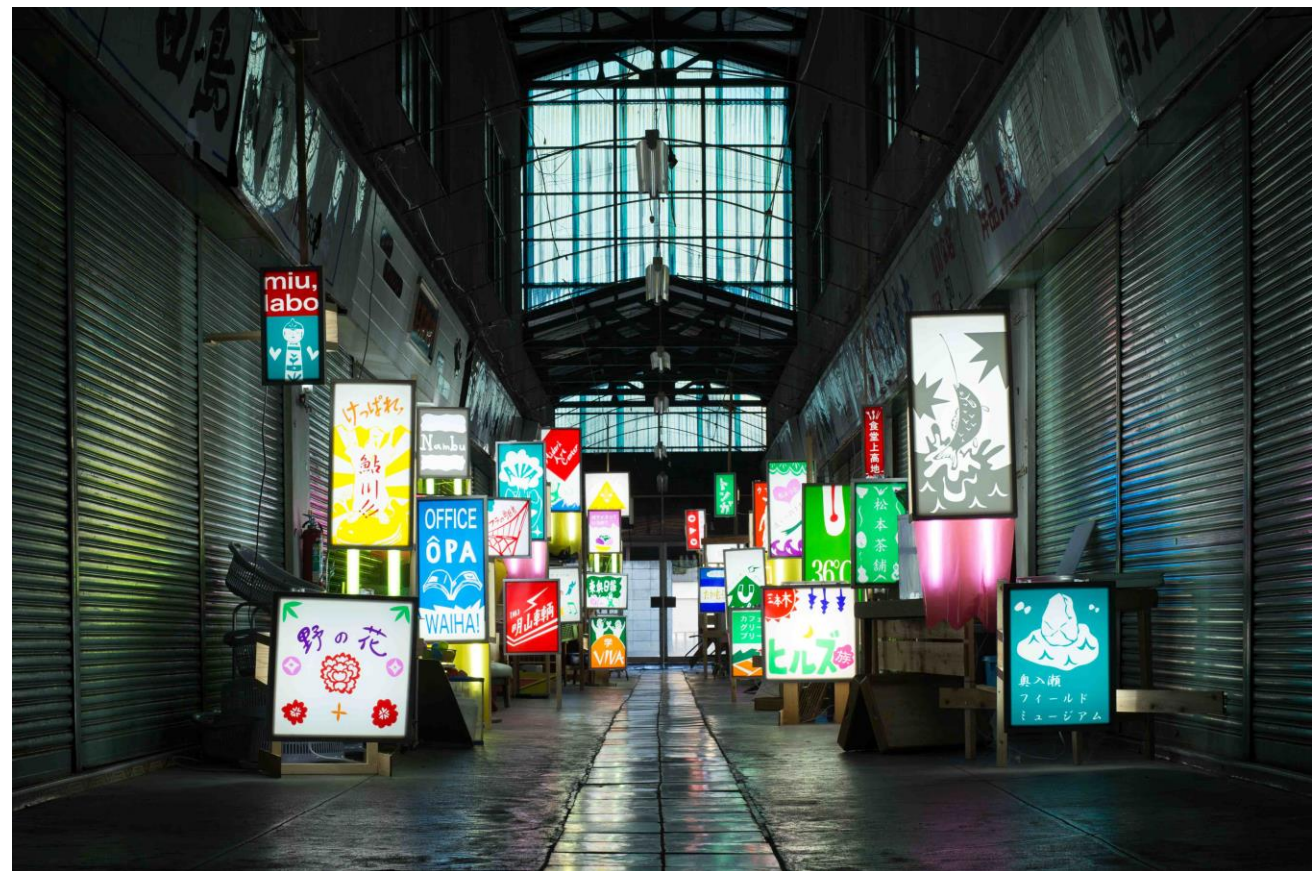
プログラム内容 ■ 招聘アーティストによる展示

中崎透（日本）「看板屋なかざき」

会期：11月7日（土）～29日（日）

常時観覧可

会場：椿井市場（奈良市椿井町5付近）

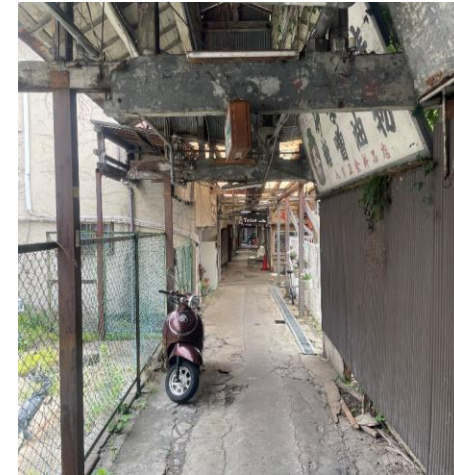


中崎透《看板屋なかざき》2014 撮影：小山田邦哉

プログラム内容 ■ 招聘アーティストによる展示

中崎透 × 椿井市場

- 椿井市場は、**大正9年に公設市場**として設置。近來の賑わいの記憶と現在も続く店舗の営み、火災や再建の痕跡等が同時に存在する場所。
- 中崎氏の作品の特徴は、本来の看板づくりを行う際の**発注者と受注者の関係を崩す**こと。中崎氏が発注内容をずらしたデザインで制作し、そのずれに着目する。
- 今回は、**椿井市場の各店舗の屋号を作品化**。同時に、奈良で活動する人々からの発注を受けて聞き取った内容を元に、その**思いを”ずらした”看板を全20点程度制作**。椿井市場が持つ時代との魅力的なズレの中で、来場者は自分が抱くイメージとのズレを考え、まちや人々の活動の固定観念を崩し、新たな発見につなげる。



プログラム内容 ■ 招聘アーティストによる展示

顧剣亨（中国）「湖は日々変わる Everyday the Lake Changes」

会期：11月7日（土）～29日（日）

10時～17時

会場：北山十八間戸

（奈良市川上町454）



プログラム内容 ■ 招聘アーティストによる展示

顧剣亨 × 北山十八間戸

- 北山十八間戸は、鎌倉時代に僧・忍性が開いたハンセン病患者の救済・療養施設。**共生や救済の場として機能**していた。その後、移転や再建を経ながら今日まで継承。
- 顧氏の作品の特徴は、複数の写真をピクセル単位で織り合わせる**デジタル・ウィービング**。北山十八間戸の継承の歴史に、異なる時間を織り合わせる顧氏の作品。過去をつなぎ、未来へ手渡していく営みが重なり合う。
- 今回は、松尾山・若草山から撮影した奈良の風景に、地図や絵図を織り込み、部屋を横断する大型の作品を展示。現風景と過去の記録が一つに重なることで、**奈良のまちが様々な時間と情報の積層で成り立つ**ことを垣間見る。繰り返し書き換えられてきた風景を見て、私たちが現代を見つめ直し、未来へと繋ぐものに思いを巡らす機会を提供する。



プログラム内容

本日から
募集開始

■ 東アジア国際シンポジウム「東アジアをアートでつなぐ」

奈良市・寧波市・済州特別自治道が、東アジア文化都市事業後のレガシーとして実施してきた10年の総括と、3人の招聘アーティストが今の奈良の地で、何を感じ、どのような思いで自身の作品に昇華したのかを紐解きます。

【日時】 11月15日（日）15時～16時半（予定）

【会場】 東大寺金鐘ホール（奈良市水門町100 東大寺総合文化センター内）

【登壇者】 招へいアーティスト：キムスージャ、中崎透、顧剣亨

東アジア文化都市パートナー都市：

寧波市（中国）・済州特別自治道（韓国）の代表者

奈良市（日本）仲川げん（奈良市長）

ファシリテーター：片岡 真実（森美術館 館長）



Photo: Kenshu Shintsubo

プログラム内容

■ まちなか舞台～奈良パフォーマンスラボ～／青少年と創る演劇Lite

時空旅行への出発地点、近鉄奈良駅前行基広場。

公募で集まった個人・芸術団体が、ショーケース形式の公演で来場者をお出迎え。

また、中高生がプロとともに創る演劇「青少年と創る演劇 Lite」も展開。オリジナルの短編作品を初めて屋外で上演。

【日時】 11月22日（日）・23日（月・祝）

各日10時～12時・13時～14時半・15時半～17時

【会場】 近鉄奈良駅前行基広場（奈良市東向中町29）

【出演団体】 全6団体（うち1つは青少年と創る演劇Lite）

【プログラムディレクター】 田上 豊（劇作家、演出家、田上パル主宰）



プログラム内容

■ 古都祝奈良の学校

「奈良で新たな表現を目指す人の活動の場を開くこと」と、「教科書をつくること」を目的とした、令和6年度から始まる3年間のプロジェクト。今年は参加者との2日間の合宿を実施。対話や散歩を通じて、自身の活動や表現、そして作品プランを掘り下げます。

【日時】 11月21日（土）13時20分～、11月22日（日）10時半～

【会場】 奈良市ならまちセンター コトナラボ（奈良市東寺林町38）
ならまち界限

【プログラムディレクター】

担任：小山田 徹（美術家、京都市立芸術大学学長）

副担任：藤 浩志（美術家、秋田公立美術大学客員教授・名誉教授）



プログラム内容

■ グリーン・マウンテン・カレッジ

小さな火を囲みながらゲストのトークを聞き、参加者同士が互いに対話する「学び合いの場」。発案者・同カレッジの小山田 徹校長がゲストを迎えて対談。

2017年から継続して実施し、今年で9年目。

【日時】 第2回：11月22日（日）／第3回：12月5日（土）18時～20時

【会場】 奈良市ならまちセンター 芝生広場（奈良市東寺林町38）

【校長】 小山田 徹（美術家・京都市立芸術大学学長）

【ゲスト】 第2回：齋藤博史（カフェ店主・薬剤師）

第3回：本間智希（建築史家 下鴨ロンド主宰）

※第1回は9月5日（土）に実施済み。ゲストはブブ・ド・ラ・マドレーヌ（アーティスト）。



プログラム内容(連携プログラム)

■ デジタルスタンプラリーキャンペーン

奈良市公式アプリ「Shika no Ashiato」のスタンプラリー機能で、会期中にデジタルスタンプラリーキャンペーンを実施。回ったスポットの数に応じて、「古都祝奈良オリジナルグッズ」をプレゼント。

＜配布グッズ（予定）＞オリジナルトートバッグ、缶バッジ等



■ ならまちセンター コトナラボ部

ならまちセンター内のオープンスペース「コトナラボ」で、会期中に誰でも参加できるプログラムを連携実施。アートコーディネーター（飯田惣一郎氏・北村大宰氏）を中心に、市内の個人・文化団体等がアートプロジェクトやワークショップ等を立案・実施。



今後のスケジュール

- 10月下旬～11月会期前に
 - ・メディア向けに展示作品の事前公開
 - ・「青少年と創る演劇Lite」の稽古風景の取材等を予定（詳細は後日ご案内します）。
 - 11月15日（土）東アジア国際シンポジウム前後で、アーティストによる作品解説（メディア対応）あり
午前中：中崎透氏・顧剣亨氏　／　シンポジウム後：キムスージャ氏
- ※11月7日（土）会期スタート時はアーティスト不在